大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

⊠と⊠に関する覚え書き

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 車, 美愛 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00004591

속と안に関する覚え書き

車　美愛

初級の韓国語を教えていて、位置名詞の속と안とはどう違うかという質問を受けることがよくある。どちらも日本語では「中」と訳されるためにその区別がよくわからないらしい。例えば、梅田博之著『ＮＨＫハングル入門』（日本放送出版協会）の第５課と第６課には次のような用例が使われている。

(1) 봉투는 저 책상 서랍 속에 있어요.

封筒はあの机の引出の中にあります。

(2) 자동차 안에는 사람이 없어요.

自動車の中には人がいません。

韓国語話者としてはこの区別を気にすることはあまりなく、その場その場で適当に使い分けているのであるが、どのように区別するのかと聞かれると説明は簡単ではない。まず、속と안の使い分けは決して二者択一的なものではない。(1)の例では속の方がよく用いられるが안も可能である。それではどんな場合にも両方が可能かというとそうではない。(2)の안を속に換えることはできない。

속と안が韓国語の権威ある辞典でどのように定義されているかを見てみよう。『우리말 큰 사전（韓国語大辞典）』（語文閣）では、次のように定義されている。

안：어떤 공간이나 물건의 둘레에서 가운데로 향한 쪽. 또는 그 부분.

ある空間や物の周囲から真ん中に向かう側。あるいはその部分。

일정한 기준이나 한계에 못 미치는 정도.

一定の基準や限界に達しない程度。

속：물체의 안쪽으로 들어간 부분.

物体の内側に入った部分。

基本語に関する辞書の定義が大抵そうであるように、この定義も意味が分かりにくく안と속の区別を知るにはあまり役に立たない。안の第１番目の定義は속にも当てはまると思われるし、속の定義には안が用いられているからである。

『국어대사전（国語大辞典)』（民衆書林）の定義も大同小異である。

안：사물의 둘러싸인 가에서 가운데로 향한 곳이나 쪽.

事物の囲まれた縁から真ん中に向かうところや側。

겉으로 드러나 보이지 않는 곳. 속.

外に見えないところ。속のこと。

어느 표준 한계에 미치지 못한 정도.

ある標準の限界に達しない程度。

속：깊숙한 안.

奥深い中。

깊숙한 안에 들어 있어서 중심을 이룬 유형/무형의 사물.

奥深い中に入っていて中心をなす有形・無形の事物。

안の2番目の定義には「안＝속」とはっきり明記していて、안と속の区別を放棄した形である。속の定義で「奥深い中」として안と속の区別が示唆されているが、「奥深い」という限定語の意味が曖昧でありやはり区別ははっきりしない。

この点で『국어대사전（国語大辞典)』（金星出版社）の次の定義は一歩進んでいるようである。

안：둘러싸인 가에서 가운데로 향한 곳이나 쪽.

取り囲まれた縁から真ん中に向かうところや側。

일정한 표준이나 한계에 미치지 못한 정도.

一定の標準や限界に達しない程度。

속：일정하게 둘러싸인 것의 안.

一定に囲まれた物の内。

어떤 현상의 상태나 이면.

ある現象の状態や裏面。

안에 들어 있는 중심이 되는 사물.

中に入っている中心となる事物。

안の定義は前二者と大同小異であるが、속の第1の定義「一定に囲まれた物の内」

は「奥深い中」に比べればかなり理解しやすい定義である。

以上に簡単に見たように、大辞典の定義は안と속の区別を知るにはあまり役に立たない。これに比べると、いわゆる学習辞典の記述や韓国語教本の説明の方がはるかに有用である。例えば、『朝鮮語辞典』（小学館）の속の項につけられたメモ「なか（안と속）」では、안と속を次のように対比させている。

一般に속は「液体・物体の内部」の意味で使われ、안は「ある範囲の中」の意味で使われる。

先に挙げた韓国語テキスト『ＮＨＫハングル入門』でも、これと同じ解説がなされている。上の大辞典の定義に比べれば、このような解説の方がはるかにわかりやすい。

しかしながら、この解説でもやはり(1)や(2)の例について述べたことを十分に説明できるとは言い難い。「自動車の中に人がいる」では안を用いなければならないのだが、なぜ自動車の中が「ある範囲の内部」であって「物体の中」ではないのか説明できないからである。안と속の区別を記述するには、多様な用例を綿密に検討することによりもう少し踏み込んで考察する必要がある。

안と속の違いを考える際に重要なことは、それが純粋に客観的・物理的な違いではなく、多分に主観的・心理的な性格を持ったものであるということである。あるものがあるものの中に入っているという関係を具現する現象は、現実世界の中に無数に存在する。それらの事象において実体として存在するのは入れ物と内容物の２つだけであり、「入っている」、「中にある」という両者の関係は人間の心理作用の産物であって、目に見え手に触れられるような実体ではない。関係概念の把握がそのような性質のものである以上、そこには物理的な厳密さとはほど遠い曖昧さがあり、主観的性格を帯び、また、比喩的な用法が発達するのは当然のことである。韓国語では「入っている」、「中にある」という関係概念を、안と속の２つで捉えているのであるが、その区分もまた、当然主観的・心理的性格を帯び、同じ現象、類似の現象が、あるいは안であるいは속で捉えられることがあっても不思議ではない。

さて、안と속の基本的な意味が、それぞれ「一定の範囲内」、「あるものの中」であるとするのは、出発点として間違ってはいないと思われる。ただし、속は単に「あるものの中」という位置関係を表すだけではなく、「すっかり囲まれている」、「包み込まれている」あるいは「閉じ込められている」という意味を伴うと考えるべきである。『국어대사전（国語大辞典）』（民衆書林）が속を「奥深い中」と定義しているのはそのような意味ではないかと思われる。

안と속それぞれの反対概念を見ておくのも区別を理解するのに重要なことであろう。안の反対概念は밖である。一定の境界を引いて、その内側が안、その外側全体が밖である。一方、속の反対概念は겉である。겉は밖と異なり、속を規定する境界面の表面を意味し、境界面の外の空間全体を意味しない。このことからも속が「囲まれている」、「包まれている」あるいは「閉じ込められている」というニュアンスを伴うことがうなづけよう。

以上のように안と속の概念規定をした上で、それが実際の用例に対してどの程度有効であるかを検討してみよう。

안の基本的意味は、外を前提とした「一定の範囲内」ということである。したがって、次のように「一定の空間的・地理的範囲内」を示す場合が典型であると考えられ、これらの안を속で置き換えることはできない。

(3) 집 안/*속의 일
家の中のこと
나라 안/*속의 정세
国内の情勢
적이 영토 안/*속으로 침입했다.
敵が領土内に侵入した。
이 시장 안/*속에서 장사하고 있다.
この市場の中で商売している。

空間的・地理的範囲を表す場合ばかりでなく、次のように比喩的に時間的・数量的範囲を示す場合も同様である。

(4) 일주일 안/*속에 완성해야 된다.
一週間以内に完成させなければならない。

예산 안/*속에서 조달해야 한다.
予算内でまかなわなければならない。
10등 안/*속에 들다
十位以内に入る

問題は次のような例である。

(5) 방 안/*속은 춥지 않다.
部屋の中は寒くない。
저 건물 안/*속에서 비를 피하자.
あの建物の中で雨宿りしよう。
도서관 안/*속에도 화장실이 있다.
図書館の中にもトイレがある。
체육관 안/*속으로 들어가.
体育館の中に入れ。
교실 안/*속에서 떠들지 말 것.
教室の中で騒がないこと。

これらの例のように様々な「部屋」や「建物」の中を表すには、속ではなく안を用いるのが普通である。「部屋」も「建物」も閉じられた空間の一種である。にもかかわらずその内部をなぜ속ではなく안で表現するのであろうか。それは、このような空間は確かに閉じられた空間であるけれども、われわれはそれを何かを入れておく「入れ物」として意識するのではなく、われわれの行動の範囲を規定する空間としてしか意識しないためであると考えられる。われわれはそこに自由に出入りできるのであり、心理的には決して閉ざされた空間ではない。外に対する内を画定するだけのものである。

同じ建物であっても「倉庫」の場合は事情が異なる。これは人間の活動空間と

いうよりも、むしろものを入れてしまっておく場所であり、必然的に閉じられていなければならない場所である。したがって、この場合には안が自然なように思われるが、속もまた可能なのである（＋はより自然だという意味である）。

(6) 창고 +안/속으로 들어갔다.
倉庫の中へ入った。

また、人間が入る場所であっても、「閉じられた空間」という意識が強い場合には안より속の方が用いられる。

(7) 감옥 *안/속에서의 10년
監獄の中での10年
독방 *안/속에 갇혔다.
独房に閉じこめられた。

(2)の「自動車の中」など各種の乗り物の中が안で表されるのも、「部屋」や「建物」の場合と同様に考えることができよう。「乗り物」とはまさに人間の乗る物であり、人間の活動の範囲を規定する空間として意識されるからである。

(8) 비행기 안/*속은 금연입니다.
飛行機の中は禁煙です。
기차 안/*속에서 도시락을 먹는 것이 즐거움이다.
汽車の中で弁当を食べるのが楽しみだ。
차 안/*속에 테이프가 있다.
車の中にテープがある。
택시 안/*속에 우산을 둔 채 내리고 말았다.
タクシーの中に傘をおいたまま降りてしまった。
지하철 안/*속에서 우연히 친구를 만났다.
地下鉄の中で偶然友人にあった。

「自動車の中」を안ではなく속で表現したとすれば、それは人間が乗るべき場所、すなわち「車内」を指すのではなく、「トランクの中」を意味すると解釈するのが自然である。したがって、次のような文は非常に不自然であるか、その人は生きてはいない感じがする。

(9) 자동차 속에 사람이 있다.
自動車の中に人がいた。

今度は속の方を検討してみよう。속には「すっかり囲まれている」、「すっぽり包まれている」というニュアンスがあると述べた。したがって、次のように液体や気体など一定の形を持たない物質の中にあることを表現するには、속が適切であることは容易にうなづけよう。

(10) 물 *안/속에 잠긴 동전
水の中に沈んだコイン
우유 *안/속에 뭐가 들어 있다.
牛乳の中に何か入っている。
연못 *안/속에서 하얀 수염의 노인이 나타났다.
池の中から白い髭の老人が現れた。
공기 *안/속에 포함된 이산화탄소량
空気の中に含まれた二酸化炭素の量
모두 땅 *안/속에 묻어 버렸다.
すべて土中に埋めてしまった。
불꽃 *안/속으로 뛰어들다
火の中に飛び込む

次のような自然現象の場合もこれに準ずるものと解釈できよう。

(11) 비 *안/속에서 한 시간이나 걸어다녔다.

雨の中を1時間も歩き回った。

산들바람 *안/속을 산책한다.

そよ風の中を散歩する。

비행기가 구름 *안/속으로 사라졌다.

飛行機が雲の中に消えた。

안개 *안/속에 가로등 불빛이 희미하게 보인다.

霧の中に街灯がぼんやりと見える。

눈보라 *안/속을 행군했다.

吹雪の中を行軍した。

次のような表現も「包まれている」というニュアンスの延長線上で考えることができる。

(12) 사람은 어둠 *안/속에서 공포를 느끼게 마련이다.

人は暗闇の中で恐怖を感じるものだ。

영하 30도의 추위 *안/속에서 관찰을 계속했다.

零下30度の寒さの中で観察を続けた。

경기는 40도의 더위 *안/속에서 거행되었다.

競技は40度の暑さの中で挙行された。

진공 *안/속에서는 아무 생물도 생존하지 못한다.

真空中ではどんな生物も生存できない。

무중력 *안/속에서의 작업은 쉬운 일이 아니다.

無重力の中での作業は容易なことではない。

何かが何かの「中に混じっている」という意味も基本的意味からそれほど遠いものではない。

(13) 이 약 성분 *안/속에는 인삼이 들어 있다.

この薬の成分の中には高麗人参が入っている。

커피 성분 *안/속에 카페인은 그리 많지 않다.

コーヒーの成分の中にカフェインはそれほど多くない。

아이들 *안/속에 어른이 두세 명 섞여 있다.

子供達の中に大人が2、3人混じっている。

학생들 *안/속으로 숨어들어갔다.

学生達の中に忍び込んだ。

군중 *안/속으로 사라졌다.

群衆の中に消えていった。

만발한 코스모스꽃 *안/속에 누웠다.

満開のコスモスの中に横になった。

「山」や「林」の中の場合も、木々に包まれているという感覚のために속が用いられると解釈できる。

(14) 깊은 산 *안/속에서 혼자 살고 있다.

深い山中で一人暮らしている。

사슴은 숲 *안/속으로 도망갔다.

シカは林の中に逃げた。

속の比喩的用法には次のようなものがある。いずれも外を前提とした「範囲の画定」とは考えがたく안は適当ではない。

(15) 그 이야기 *안/속에는 중요한 교훈이 담겨 있다.

その話の中には重要な教訓が込められている。

말 *안/속에 가시가 있다.

言葉に刺がある。

농담 *안/속에 진담

冗談の中の本当

우리나라 말 *안/속에 융화된 일본말

国語の中に溶け込んだ日本語

이 노래 가사 *안/속에는 사랑이란 말이 몇 번이나 쓰여져 있다.

この歌の歌詞には「愛」という言葉が何度も使われている。

가혹한 환경 *안/속에서 참고 견뎌냈다.

過酷な環境の中で耐え抜いた。

사회 생활 *안/속에서 지켜야 할 룰이 있다.

社会生活の中で守らねばならないルールがある。

그는 마음 *안/속으로 이렇게 다짐했다.

彼は心の中でこう誓った。

마음 *안/속의 연인

心の恋人

그의 머리 *안/속에 어떤 생각이 담겨 있는지.

彼の頭の中にどんな考えが秘められているのか。

가슴 *안/속으로 담고 아무에게도 말하지 않았다.

胸の内にしまって誰にも話さなかった。

상상 *안/속의 인물

想像の中の人物

꿈 *안/속의 고향

夢の中の故郷

잠 *안/속에 잠입한다.

眠りの中に入り込んだ。

소설 *안/속에서 자기 경험을 말하고 있다.

小説の中で自分の経験を語っている。

그의 작품 *안/속에는 인류공존 사상이 뿌리를 내리고 있다.

彼の作品の中には人類共存の思想が根を下ろしている。

最後に、具体的なある物が具体的なある入れ物の中に入っているという、最も典型的な場合について述べよう。このような場合、韓国語の教科書では大抵속を用いているのであるが、実際には안と속のどちらも可能である。具体的な場合毎にどちらかの方が自然に感じられ、無意識的に選択して使っているのであるが、よく考えてみると안と속のどちらも可能だというのが普通である。物と入れ物だけの関係を考えれば、閉じられた空間（あるいは平面）の中に入っているのだか

ら、속が用いられる領域となる。しかしながら、物には意志がないけれども、人間はその物を自由に出し入れできる。したがって、入れ物は人間が物を入れるという活動の範囲を画定するものであるとも解釈できる。そのように解釈した場合には、안が用いられる領域ということになるのである。

(16) 밥그릇 안/속에 무엇이 들어 있습니까?
器の中になにが入っていますか。
찻잔 안/속으로 먼지가 들어갔다.
茶碗の中にほこりが入った。
컵 안/속에 물을 반 정도 따라 주세요
グラスの中に水を半分ほど注いでください。
항아리 안/속에서 물을 뜬다.
壺の中から水を汲む。
가방 안/속에서 서류를 꺼낸다.
カバンの中から書類を取り出す。
지갑 안/속에는 돈이 한 푼도 없다.
財布の中にはお金が一文もない。
트렁크 안/속에서 신음소리가 들린다.
トランクの中からうめき声が聞こえる。
지우개는 오른쪽 서랍 안/속에 있다.
消しゴムは右の引き出しの中にある。
상자 안/속에서 이상한 소리가 들린다.
箱の中から変な音が聞こえる。
우표는 봉투 안/속에 넣어 두었다.
切手は封筒の中に入れておいた。
난로 안/속에 휘발유를 넣으면 위험하다.
ストーブの中にガソリンを入れると危険だ。
아까 쓰레기통 안/속에 버렸다.
さっきゴミ箱の中に捨てた。

이 조개 안/속에서 큰 진주가 나왔다.

この貝の中から大きな真珠が出た。

피라미드 안/속에서 미이라가 출토되었다.

ピラミッドの中からミイラが出土した。

포켓 안/속에 손을 집어 넣는다.

ポケットの中に手を突っ込む。

냉장고 안/속에 맥주가 들어 있다.

冷蔵庫の中にビールが入っている。

풍선 안/속의 공기가 점점 없어지고 있다.

風船の中の空気がだんだんなくなっている。

구두 안/속에 무기가 감춰져 있다.

靴の中に武器が隠されている。

이 라이터 안/속에는 소형 카메라가 내장되어 있다.

このライターの中には小型カメラが内蔵されている。

터널 안/속으로 기차가 들어간다.

トンネルの中に汽車が入っていく。

터널 안/속에서 기차가 나온다.

トンネルの中から汽車が出てくる。

눈 안/속에 티가 들어갔다.

目の中にほこりが入った。

아기는 뭐든지 입 안/속에 넣는다.

赤ちゃんは何でも口の中に入れる。

귀 안/속으로 벌레가 들어갔다.

耳の中に虫が入った。

몸 안/속에서 땀으로 배설된다.

体の中から汗となって排泄される。

参考文献

梅田博之、1985、『ＮＨＫハングル入門』日本放送出版協会

『우리말 큰 사전（韓国語大辞典)』、語文閣、1994, ソウル

『국어대사전（国語大辞典)』、民衆書林、1995, ソウル

『국어대사전（国語大辞典)』、金星出版社、1995, ソウル

『朝鮮語辞典』、小学館、1993

（朝鮮語講師）